

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292100039		
法人名	社会福祉法人 愛児福祉会		
事業所名	グループホーム三愛園		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字関字栃沢80-9		
自己評価作成日	令和2年12月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の持っている能力・願望・好みをニーズとして捉え、一人ひとりの生活ニーズをもとにした介護計画の作成を行い、快適な生活ができるように援助している。援助するスタッフは、スキルアップ(専門性を高めること)を目指している。内部で福祉理念について学ぶ研修を行うことにより、利用者の最新の情報を共有して介護する取り組みを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

子供には希望を、お年寄りには尊敬を持って接するという意味の「愛望愛敬」を理念に掲げ、心と心のふれあいを大切にする方針でホームの運営をしている。法人は地元で古くから保育園を運営しており、地域との関りは深く、ホームの避難訓練には近隣住民の協力がある。ホーム職員は、利用者が家庭的な雰囲気の中で、地域住民との交流の下、毎日笑顔で安心して過ごせるように、愛情を持って利用者に接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛望愛敬」が法人の基本理念である。赤ちゃんからお年寄りまで、心と心のふれあいを大切に運営をしている。	開設当初からの理念「愛望愛敬」があり、毎月の職員会議等で確認して、全職員で共有し、理解を深めている。職員は利用者に対して愛情を持ち、敬いの心をもって日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や地域の方々に理念が浸透するために、毎月経営者と職員で打合せ(職員会議)を実施している。理念を意識して、良い接遇ができるよう周知を図っている。	近所の方から魚や野菜をいただいたり、近隣の小学校の運動会へ参加したり、保育園からの訪問等を行っており、日頃から地域との交流が活発に行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や町内グループホーム連絡会議において、認知症のケアについて、個々の事業所だけでなく地域全体で見守る姿勢を大切にしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場福祉課の職員または地域包括支援センター職員どちらかが必ず出席している。老人クラブ会長や民生児童委員、利用者代表がメンバーとなっている。会議の場で評価について説明を行い、理解をいただいている。	コロナ対策を講じた上で、運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や運営状況等を報告し、メンバーから様々な意見をいただいて、今後のサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者が実地指導を含めて度々訪問してくれている。また、メール等を利用して事務連絡を行っている。運営推進会議には毎回、町の職員が参加している。	運営推進会議には毎回町の担当課と包括支援センター職員が参加しており、互いに情報交換している。日頃から行政とは連絡を取り合っており、利用者の課題解決に向けて、連携の構築がされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本姿勢として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。実際に今まで行ったことはない。念のために同意書の用意はしている。	ホームでは、身体拘束に関する指針やマニュアルを作成しているほか、身体拘束廃止委員会を定期的開催している。職員は身体拘束の内容やその弊害についても理解しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については重要と考えており、外部・内部研修を実施し未然に防ぐように取り組んでいる。虐待を見過ごすことのないように地域ぐるみの運動にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度についての研修を受けている。これらの学びは非常に難解であり職員の中には拒否反応がでる場面もある。ただ人生の先輩として、尊敬の心を持って接することが大切である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介されたときは訪問して、本人と家族に不安を抱かれることのないように、十分に説明し、見学に来ていただくよう勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や広報には外部の相談先を明示している。面会や事務用務で見えたときに、ご意見を出していただけるようお願いしている。	日頃から利用者とのコミュニケーションを大切にし、意見や苦情を出しやすい関係作りに努めている。ホーム内に苦情受付窓口を掲示しているほか、第三者委員会も設置しており、直接外部に意見を話せる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で、運営や行事予定、利用者の状況等の様々な意見が出ている。意見の中には提案等もあり、できる限り反映するようにしている。	毎月職員会議を行っており、利用者の状況や運営について等、全職員で検討している。利用者の受け入れや勤務体制等についても、職員の意見を聞きながら行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員にとってのスーパーバイザーであり、どんなことでも提案できるような信頼関係が構築されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら年1回は外部の研修を受講するように努力している。また、資格取得希望者には支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流している。また、情報交換は地域ケア会議等を通して行っている。日本グループホーム協会に入会しており、青森県支部主催も含めて研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネジャー等の情報を取り入れて、職員の意見を聞き、十分に情報を活かしたアセスメントを行い、信頼関係を重視した関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を取り入れて、利用者と同じように信頼関係を重視した関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活のことは、利用者や家族とよく相談したうえで、医療や介護の支援をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「介護を受ける人」ではなく、「主体的に生活する人」として、またスタッフは「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までは家族にたくさん訪問していただけるように声掛けしてきたが、今は訪問ができない状態である。しかし、利用者を支援するために、場面場面で電話等で家族に相談して進めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医療機関や理美容院等は、馴染みのところへ行けるように配慮している。職員はいつも利用者の視点で家族と話し合って調整している。一人ひとりが安心してサービス利用できるように事前に利用者・家族に聞き取りをして介護を行っている。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所を把握するようにしている。家族からの手紙や電話での連絡のほか、スーパーや美容院等のドライブの外出支援等を行っており、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「主体的に生活する人」同士がお互いを良く理解しあえるように関わっている。しかし、性格や価値観の違いなどから摩擦が起きることもある。職員は非審判的態度で、傾聴、受容、共感して支えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所した方には、便り等を持って訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を良く聞き、利用者のペースで支援することを心掛けている。入浴・外出・食事等の場面で、決して急がせることはしないようにしている。	職員は日頃のコミュニケーションの中で、利用者の気持ちに寄り添って、希望や意向の把握に努めている。また、家族や関係者からも情報収集して、全職員で情報を共有し、利用者本位の意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やアセスメント、日常の会話等から情報を得て、支援に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者はみんなで食堂でくつろいだりしている。個室も環境がよく、外の景色がよく見えて居心地が良い。自由に思い思いのものを持ってきており、不自由さはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は作成している。その基になるアセスメントや職員のケース検討も行っている。職員や家族等の連携をとりながら、そのときにあった介護計画作成を行っている。	利用者について、日頃から利用者及び家族の意見を聞いている。また、全職員の意見や気づきを基に職員会議で検討しており、利用者一人ひとりの現状に即した、個別で具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った視点で記録している。しかし、計画にないようなことも起きるので、職員間で連携しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎・理美容院への外出支援等を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響であまりできなかったが、地域を散歩したり、隣接地の子ども園やデイサービスとの交流を行ったりしている。認知症を理解していただけるように、プライバシーに配慮しつつ地域の方々に啓発活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。受診後は家族に報告しており、情報の共有が図られている。多くの利用者の主治医だった診療所が休止している状況である。	入居時にこれまでの受療状況を確認し、把握しており、それまでのかかりつけ医への通院の対応をしている。また、歯医者等の専門医への受診についてもホームで対応しており、利用者が希望する医療が適切に受けれるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していない。法人内の他の事業所の看護師に相談して、具体的な助言をいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室等と連携して、入退院時の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の病院では医師不足は深刻な問題であり、日頃の連携はできているが、ホームでのターミナルケアに向けた連携やマニュアル作成までには至っていない。しかし、管理者と利用者や家族とは話し合いを行っている。	入居時に重度化や見取りについてホームの方針を説明している。日常的な健康管理や重度化した場合の対応については、日頃から医療機関とも話し合いを行っており、利用者及び家族とも意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の個別の状態に応じて備えている。緊急時は主治医と家族に連絡している。必要であれば救急車を要請することについて話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は町の指定する場所に避難することとしている。夜間は1人なので、近隣に住む職員が駆けつけている。11月に津波や火災を想定した総合訓練を実施している。	年2回、夜間も想定した避難訓練を行っている。利用者全員を避難場所まで車に乗せて移動する訓練を行っており、普段から実際の災害時に対応できるように備えているほか、食料品や飲料水、防寒器具等の物品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に気を配っている。言葉遣いを管理者から注意することもある。各室の表札については利用者にとっては有効であるが、訪問した方や地域の人等に対しては十分に配慮している。	職員は利用者の言動を否定したり拒否しないように努めている。また、日頃から個人情報やプライバシーには配慮して対応をしている。利用者に声掛けや対応について職員会議で振り返る等、日頃から改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを把握して、職員間の情報の共有を大切にし、利用者本位で生活できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを最優先して接するように努めている。一人ひとりに合ったペースでの暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活暦や習慣、希望、利用者の趣味に合わせて、おしゃれや楽しみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は会話しながら良い雰囲気で行うように努力している。献立作りから調理まで利用者の意見を聞きながら取り組んでいる。	ホームでは、利用者の好みを把握しており、栄養バランスを考慮した手作りの食事を提供している。利用者の状況に応じて、下ごしらえや食器拭き等を職員と一緒にっており、準備を含めて食事の時間が楽しく過ごせるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおり、利用者一人ひとりについて栄養バランスを配慮している。それぞれにあった支援をしている。水分は1500CCを目安としている。摂取量は必要に応じて、個人ファイルに記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個室に洗面所がある。自分でできる利用者には、毎食後に声掛けをして歯磨きや義歯清掃を行ってもらっている。困難な利用者には、職員が一緒に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立は課題の一つである。利用者は排泄を失敗することもあるが、やさしく、さりげなくそして根気強く支援をしている。	利用者の排泄記録をつけ、パターンを把握しており、トイレ誘導が必要な利用者に対しては、羞恥心に配慮した声かけで対応している。また、オムツやパッドの継続が必要か否か随時話し合うなどしており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用している利用者もいるが、便秘気味の方には水分と食物繊維を多く含んだ食品をたくさん摂っていただく声掛けをするほか、適度な運動をしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回、1対1で介助して入浴していただいている。回数や入浴時間、介助方法について不満は出たことはない。現在は入浴を拒否する利用者はいない。	利用者一人ひとりの習慣や好みを把握して、週2回入浴できるようにしている。また、車椅子の利用者には系列のデイサービスまで送迎して、機械浴で安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で管理できる方はいない、職員がその都度手渡しして服薬するように見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣、希望、利用者の能力に合わせて、何が楽しみごとになり得るか把握しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は困難であったが、散歩やドライブ等、積極的に外出の機会を作って、利用者には外出の喜びや楽しさを提供している。ホームの周辺を散策する活動を取り入れている。	コロナ禍で以前のように外出する機会は減ったが、普段からホームの周りや近隣を散歩する等、なるべく利用者の気分転換ができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等に一定金額を所持していただき、自由に使ってもらっている。ほとんどの利用者は、職員に聞きながら買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームから家族に電話するときには、プライバシーを尊重しながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしている。窓からは診療所や子ども園や小学校等を見ることができて、人々の日常生活が感じられる。	ホールにはテーブルと椅子を配置しているほか、リビングスペースには大きなソファがあり、利用者は思い思いの場所で談笑しながら寛いで過ごしている。窓から入る日差しと照明により、ホーム全体明るい雰囲気が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	木材がふんだんに使われて家庭的な雰囲気である。周囲の風景はすばらしく、岩木山も見え、いつでも季節を感じながら生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品等を持ち込めるように働きかけを行っており、テレビや衣装ケース等を持ち込んでいる。位牌や行事の写真、手作りの作品等を飾っている。	利用者は茶碗や湯飲み等の愛用品のほか、位牌や家族の写真等の思い出がある物等を持ってきている。安心して生活できる居心地のいい居室作りの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自火報設備やスプリンクラー設備があるが、いざというときはみんなの協力が重要である。定期的な避難訓練も行っている。		